

ここにしかない価値を見つけて欲しいから。

# とくしま 移住者受入れ ガイドブック

Coordinator Guidebook  
Tokushima



とくしま移住コーディネーター育成研究会

# いま、どうして「移住」なのか

現在、全国各地で人口減少が叫ばれています。徳島県下でも人口減少による過疎・高齢化は顕著に進んでいます。昨年からは全国の自治体が「人口ビジョン」の策定を進めるなど、人口減少対策が急速に広まっています。

では、人口減少は実際どうして問題なのでしょうか？例えば、皆さんの暮らす地域でも人口減少により草刈りやお祭りを始めとした地域での活動が難しくなってきたりしていませんか？あるいは少子化によりお祭りの担い手も減少していませんか？これまでには人口が減りつつもなんとか守ってきた地域の伝統も今後10年を考えるとその維持が難しくなってきます。更に地域の草刈りを始めとした集落維持活動も若者の減少によってますます難しくなってきます。

このように、人口減少が進むと集落を維持していくことも難しくなってきます。地域社会が崩壊してしまって、地域の中での助け合いも一気に衰え、生活 자체が難しくなってしまします。こうした問題はできるだけ早く手を打つことが肝要です。

一方で、道路交通の発達や、インターネットの普及により、都市部から農山漁村に移住しよう、という動きも増えてきています。彼らは都市部での暮ら



※この冊子は徳島県政策創造部地方創生局地方創生推進課集落再生担当者及び、各自治体の移住窓口担当者、移住コーディネーター、各地の移住支援団体の有志により結成した移住コーディネーター育成研究会ワーキンググループが移住者交流、定住支援を目的に作成いたしました。参加団体は次の通りです。(順不同)

- ・株式会社いろどり
- ・NPO法人グリーンバレー
- ・阿波市観光協会
- ・佐那河内村
- ・勝浦町
- ・NPO法人マチソラ
- ・三好市
- ・那賀町
- ・一般社団法人アンド・モア
- ・海陽町

しよりも地域での暮らしを前向きに捉えて地域を選択しています。移住者が地域の新しい担い手となり、活力を取り戻している地域も現れ始めています。

では、どうして移住者があつまる地域となかなか集まらない地域の差が生まれるのでしょうか？それは、地域の受け入れ体制によるものと言われています。つまり、地域社会が移住しようという人々と積極的に関わり、関係をもつことが地域の魅力となり、さらなる移住者の獲得につながっている、ということです。移住者が集まる環境を創るのは、行政の努力でも移住者の気持ちでなく、今、集落に暮らしている方々の魅力なのです。

また、移住者にも様々な人がいます。地域に貢献する人、地域に迷惑になる人、様々です。ですので、他人事と考えず、地域に暮らす方がどれだけ、地域の未来を考え、移住者を受け入れていくかが大切です。本書はそのための一助になれば、と県内で移住者の受け入れに関わる人達が集まり、検討を重ねながら作成したものです。



監修  
**田口太郎**

徳島大学総合科学部

准教授

専門:都市・地域計画、  
まちづくり

神奈川県生まれ。東京で  
大学を卒業後、新潟、徳島  
の大学で教鞭をとり、2015  
年に佐那河内村に移住。  
古民家を改修して家族4人  
で生活している。

## CONTENTS

- 2 移住者を受け入れるために地域ができること  
移住者受け入れチェックリスト

### 地域の取り組み紹介

- 4 上勝町  
6 神山町  
8 佐那河内村  
10 阿波市  
12 三好市  
14 勝浦町  
16 美波町  
18 那賀町  
20 海陽町  
22 徳島県の移住相談窓口  
24 平成28年度 移住・交流フェア予定表  
25 うちの町に移住者がきた!?  
28 移住者あるある



# 受け入れるために 地域ができるここと 移住者を



「住んでもらえればよい」、というものでもありません。移住者も十人十色、様々な人がいますので地域との相性のようなものが大切です。また、移住者が住むための空き家や、就農

しようとする場合は農地も必要です。新しく地域の中で生活を立ち上げるための準備をしなくてはなりません。

ちょっと大変なようにも感じますが、お互いをよく認識し気心の知れた地域では、こうした移住の手伝いをすることはさほど大変なことではありません。一方で、何もしなけれ

ばその準備が出来ておらず、移住してこようにも来れない、ものであります。ということが起ります。

ぜひ、地域の中で、どんな地域であつたらよいのか、どんな移住者に来て欲しいのか、を話し合う機会を作つていなければと思ひます。

ここでは、簡単に移住者受け入れの大きな流れを示します。まず、日常でもできること、移住者が決まり、地域に越してくるまでにできることが、更には地域社会に溶け込んでいく時、それぞれの時期にあわせた地域との交流が大切です。

## ●移住時

### □移住者との挨拶などはしていますか？

移住者は地域にどのような人達が住んでいるのか、知らないこともあります。地域の中で歓迎会をする、あるいは臨時ででも寄り合いを開くなど、地域の方と移住者が顔を合わせ、知り合う機会をつくることが関係づくりを進める上でも大切です。

### □地域のルールはお知らせしていますか？

ゴミの出し方や、集落行事、集落仕事など地域で暮らしていくには様々なルールがあります。しかし、移住者の多くはあまり詳しく知りません。「地域の常識」も「移住者の常識」とはズレが有ることも多くあります。地域の暗黙のルールを移住者にも丁寧に教えていくことが大切ですし、最初のうちは守れないからと避難せずに丁寧に伝えていくことも大切です。

### □地域行事のスケジュールなど、お知らせしていますか？

移住してくる人の多くは地域行事への参加も楽しみにしています。ところが、地域の方々から地域行事の情報が行かず、お祭りに参加できない、その存在を知らない、ということもあります。地域の歳時記や行事など、丁寧に伝えていくことが大切ですし、様々な行事に誘ってあげることも大切です。

## ●移住後

### □日常的なコミュニケーションはとっていますか？

移住者は地域に知人が多くは有りません。ですので、地域での暮らしでわからないこともあります。日常的に挨拶などをしていると、そうした機会にちょっとした疑問を聞くことも可能です。移住者だから、とあまり距離を取り過ぎずに時折訪ねてみるなど、日常的なコミュニケーションを採ることも大切にしましょう。

### □移住してきた人が、ちょっとした相談などができる人はいますか？

移住者は地域に馴染みたいと思っていることもあり、なかなか相談できる相手がいません。是非、移住者に積極的に声をかけて、ちょっとした困りごとなどを聞いてあげることも大切です。

このように移住者と地域との適度な関係をつくっていくことは手間がかかるのですが、料理と同じように手間を掛けることが“美味しい”関係をつくっていくうえでも大切です。お互いがお互いを知り、尊重しあうことで良い関係づくりを目指しましょう。

## ● 移住者受け入れまでの流れ

### 1 平時

日常でも  
できること

移住者の多くは空き家を借りたり、購入したりすることで住む場所を確保します。しかし、空き家はなかなか見つかりません。地域の中で貸していただける空き家を探すことも必要です。更には、どんな移住者に来て欲しいのか、イメージしておくことで地域と相性の良い移住者が見つかるかもしれません。

### 2 移住時

移住者が決まり、  
地域に越してくるまでに  
できること

移住者が決まるといよいよ引越しです。しかし、移住者は地域の方々のことでも知らないこともありますし、地域のルールも知りません。地域の中では「当たり前」のこともあるかもしれません、何も知らない移住者にこうした情報提供や人の紹介をすることが大切です。

### 3 移住後

地域社会に  
溶け込んでいく時

移住者が地域になじんでいく際に様々な不安や疑問が出てくることがあります。こういったちょっとした困り事を地域の中で相談できたりすると、地域に定着しやすくなりますが、移住が「ゴール」なのではなく、移住は地域社会の一員としてのスタートですから、末永くお付き合いしていくための準備となります。

## 移住者受け入れチェックリスト

### ● 平時

#### □ 地域に空き家は有りませんか？

地域にたくさんある空き家。住み手がいなくなったり傷んでしまいます。傷んでしまうと、大規模な改修をしなくては住むことが出来なくなってしまいます。地域に空き家がある場合など、持ち主と相談して時々換気をするなど、空き家の維持も移住者を獲得する上ではとても大切です。

#### □ 地域の空き家は貸してもらえそうですか？

全国で移住が進まない大きな要因の1つに「空き家が貸してもらえない」という要因があります。理由は様々なですが、地域としても空き家を貸してもらえるように家主の方と相談してみると大切です。

#### □ どんな移住者に来て欲しいのか、 地域の中でイメージしていますか？

移住者にも様々な人がいます。定年退職したシニアや子育て中の若者。インターネットを利用してバリバリ仕事をしているIT技術者やビジネスマンなど様々です。地域の活力を取り戻すという大前提にたち、どういう移住者を地域として受け入れていくのか、地域の中で話し合っておくことも大切です。

#### □ 都市からくる移住者ってどんな人か、 イメージしていますか？

都市からやってくる移住者はこれまで都市住民です。地域で暮らす方々と必ずしもライフスタイルが一致するとは限りません。たとえば、夜遅く帰宅し、朝も遅いかもしれません。草刈りが十分にできていないことも多くあるかもしれません。それを否定しそぎずに少しづつ地域での暮らし方に馴染んで貰う必要がありますし、地域の側もそうしたライフスタイルを許容していくことも必要かもしれません。そのためにも、「自分たちとは違う」人が移住してくる、ということをよく理解することが大切です。



インターンでは地域のおじいちゃんおばあちゃんが先生! 仕事のこと、人生のこと、いろいろと教えてくれる

## 地域の背景 取り組みの実例

上勝町は現在(2015年12月末)人口約1700人、高齢化率は50%を超えており、県内でもとりわけ過疎・高齢化が進行してきた。しかし、14年前から「緑のふるさと協力隊」の受け入れ、その後も「ワーキングホリデー」「田舎で働き隊」「インターナシップ」等、町外からの人を受け入れるためのプログラムを常に実行ってきたことにより、主に20～30代の若者を中心とした移住者が「コンスタントに入ってきている。

ただ、当初から人口減少や高齢化を見越して、戦略的に移住・交流プログラムを行い、移住者を増加させてきたわけではなく、受入窓口があることによって、上勝町に興味がある様々な層の人と町とのつながりが生まれ、移住者が徐々に増えていった。



山々に囲まれ美しい棚田の風景が残る上勝町(ドローンにて撮影)

の成果を踏まえてある程度戦略的に移住者獲得を目指して事業を実施してきたが、移住に至るまでの流れはこれまでとあまり変わらず個人ベースの話が多いため、空き家バンクや土地の貸し借りに関する仕組みづくりはまだ整備があまり進んでおらず、それは今後の課題である。

● 移住後  
移住後は  
関与しない  
地元の人を  
は声掛けを

申し込み用紙を提出しても  
や、参加が決定したら日程  
や研修スケジュールの調整を行  
う。インターンシップ期間  
中は、町の人や企業・団体・取  
り組みとのつながりをつくる  
こと、「みの」34分別など上勝  
町での生活を体験してもら  
う。その後、定住につながるよ  
う、空き物件の見学・求人中  
の町内企業へのヒアリングを  
行う。地域おこし協力隊就任  
や青年就農給付金受給等の  
要望があれば役場担当者とつ  
なぐ。

● 移住時

株式会社いろどり、もしく  
は上勝町役場に移住希望者

### ● 移住者受け入れまでの流れ

新規ビジネスを立ち上げる移住者も増えており、町に新たな産業や雇用を生み出そうとしている。

上勝町における移住の特徴として、地域住民との関わりの中

移住に関する問い合わせ

株式会社 いろどり

勝浦郡上勝町大字福原字平間71-5

TEL: 0885-46-0166 インターンシップ事業担当 粟飯原(あいはら)

<http://www.irodori.co.jp>



2016年2月に東京で行った『旅する上勝カフェ@下北沢 in 2016』の様子。上勝町のPRイベントに30人余りのインターン卒業生が駆けつけた



インターンシップ生が彩農家のもとで葉っぱの出荷準備中

で「この町にもっとみたい」という思いを持つて移住してきた人の割合が多いため、もちろん個人差はあるものの、町への愛着が強く、移住後も積極的に地域住民と関わって町の一員になろうという意識が強い。そして多くの人が交流プログラムを経て移住してきており、中には当初は移住を全く検討していなかつたが、研修期間中の体験や人とのつながりから移住につながったケースもある。またその反対に、移住を視野に入れてプログラムに参加した

が、実際に町に滞在しながら仕事をや生活の体験を行う中で、当初抱いていたイメージとの違いを感じて帰っていくケースもある。交流プログラムというワントクションが、地域住民－移住者間のいい機会となっている。

で「この町にもっとみたい」という思いを持つて移住してきた人の割合が多いため、もちろん個人差はあるものの、町への愛着が強く、移住後も積極的に地域住民と関わって町の一員になろうとい

## 交流プログラムまとめ

1999年に初めて、「NPO法人 地球緑化センター」主催の「緑のふるさと協力隊」を受け入れを行つて開始し、平成23年度まで年間2～3名程度の受け入れを行つてきた。このプログラムの特徴は、①活動期間が一年間と長期であること、②仕事・生活の両面で地域住民と密接に関わることが可能であること、③活動内容は、町内農家の作業の手伝い、産直市での接客、行事・イベントの手伝いなど。活動期間中に様々な人たちと関わる中で町に結びついた人が約10名いる。

「緑のふるさと協力隊」を皮切りに、その後「ワーキングホリデー」「田舎で働き隊」等、町外からの人を受け入れるためのプロ

グラムを行つてきた。2010年からはインター・ンシップ事業を開始し、受入窓口は株式会社いろどりが担当している。



株式会社いろどり代表・横石知二。葉っぱビジネスの仕掛け人

から始まり、内閣府事業の「地域密着型インター・ンシップ」として開始し、約1年半の間に延べ236名を受け入れ、うち21名の移住につながった。研修内容は上記の「緑のふるさと協力隊」と同様に、町内の仕事と生活を体験すること。少なからず移住実績が出たことから、内閣府事業終了後に町の単独予算で同様のプログラムを継続していくことが決まり、引き続き株式会社が実地主体となり「いろどりインター・ンシップ」が開始した。これまで(2016年3月末まで)に380名が参加し、17名の移住につながっている。

# アートが育む多様性 多様性から生まれる可能性 神山のまちづくりはいつも現在進行形



神山アーティスト・イン・レジデンス

## 地域の背景

町の中央を鯰喰川が東西に流れ、周囲を山々に囲まれた神山町。すだち・うめをはじめとする農林業が主産業で、四国霊場12番札所「焼山寺」を有し、阿波踊り、人形浄瑠璃などの文化が今も町内で受け継がれている。

1955年頃に21,000人いた人口は、過疎化の影響で5,843人（2015年10月1日）にまで減った。近年は住民による盛んなまちづくりが実を結んだ結果、全国各地から多様な人たちが移り住むようになり、「人」を活かしたまちづくりが進展しつつある。

## 取り組みの実例

- 神山アーティスト・イン・レジデンス（K A I R）
- K A I Rでは、毎年国内外から3名のアーティストが招聘され、移住希望者や空き家持ち主からの相談に毎日対応（年末年始除く）。



大乘山からの風景

## ● 平時

移住希望者や空き家持ち主からの相談に毎日対応（年末年始除く）。WEBと町の広報誌を使つた情報発信。

お試しハウス、コワーキングスペースなど、興味がある人は誰でも利用できる場を日常的に用意しておく（地域とのお見合いの場）。

## ● 移住時

空き家&持ち主の紹介、契約締結、空き家掃除のサポート。

特に空き家掃除は、地域の人々にゴミの出し方を直に教わるチャンス。

## ● 移住後

移住後のあいさつ周りに行、地域の世話人ととの間を取り持つ。空き家を改修して神山町に定住しようとする移住者は、町の支援制度「移住支援空き家改修事業補助金」が利用可能。

## ● 移住者受け入れまでの流れ

り、神山町ではNPO法人グリーンバレーが移住交流支援センターの運営を担っている。



古民家を改装してできたオーガニックレストラン



元縫製工場を改装したコワーキングスペース「コンプレックス」

### ● 神山塾

神山塾は滞在型職業訓練として2010年の12月に始まり、運営は株式会社リレイションがNPO法人グリーンバレーと協力して行っている。20~30代を中心とした若者が、全国各地から神山に集まり、地域に根ざしたプロジェクト企画・運営を学ぶ。第六期までに77名が参加し、約38%に当たる29名が卒業後も町に残り、定住している。第七期からは企業インターナーシップの形をとり、町内の3つのサテライトオフィスも研修プログラムを実施、全国から人材の募集を行った。

### ● ワーク・イン・レジデンス ワーク・イン・レジデンスは神山の



LICHT LICHT KAMIYAMA  
金澤光記さん。「約10年間、靴を作る仕事を続けてきました。独立を目指して妻の実家の徳島にではじめようと決め、何かのきっかけになるかと思い、就業支援訓練である神山塾を受講しました。神山町に対しては、多様なひとたちと関わることや、田舎という落ち着いた環境でモチベーションが高まっている」と語ります。開業前に踏み切りました。開業する前は不安ばかりでしたが、神山町の発展性の高さや住民の方々の暖かさに恵まれて、今では心地よく仕事に専念できています。仕事終わりには、地元の阿波おどりの連である桜花連で地域の方々と一緒に汗を流しています」。

出身地:愛知県 移住年:2014年



神山塾

● ワーク・イン・レジデンス  
ワーク・イン・レジデンスは神山の

### ● 移住に関する問い合わせ

NPO法人グリーンバレー  
名西郡神山町神領字中津132  
TEL : 088-676-1177

増えるなど、新たな人の流れを生み出している。

### 今後の展望

アートから始まった神山のまちづくりは、サテライトオフィスやオーガニックレストランといった、当初から想定もつかない流れにつながり、まちに新たな活気を生み出した。2016年度からは、神山町の地方創生プロジェクト「まちを将来世代につなぐプロジェクト」が本格的に稼働し、NPO法人グリーンバレーも地域公社「神山つなぐ公社」や神山町役場と協働して、継続的な転入受け入れを可能とする。

移住支援の柱となる取り組みで、雇用がないという過疎地の課題をふまえ、仕事を持った人に移住を呼びかけるというもの。2008年

# 農業が主産業の徳島県唯一の村で 若者が中心となつて始めた 移住サポートに注目！



さくらももいちごの圃場。

## 地域の背景

佐那河内村は徳島市と神山町に挟まれた徳島県唯一の村。人口は2300人弱。すだち、みかん、さくらももいちごを中心とした農業が主要産業だ。美味しい米の穫れる地域として、古くは清流と棚田で作られた味の良い米が徳島藩の蜂須賀公に献上されたこともある。徳島市内へは車で約30分程度。全戸に光ケーブル

が引かれ、インターネット環境が整っているのも魅力のひとつだ。

## 取り組みの実例

### ● 空き家の再生

佐那河内村では移住者を受け入れるための空き家は限られており、改修を行わなくても住める場所はほぼ無い。そのため佐那河内村に移住してきた建築士や、大阪工業大学と連携して古民家の再生を行っている。徳島県の建築士会にも協力いただき、空き家を調査を行い、空き家カルテを作成。耐震診断などをした上で、大きな地震にも耐える工事を行っている。

### ● 移住支援団体

平成26年10月に、「ねごう再生家」、平成27年7月に「宮前笑会」という移住支援を行う2つの団体が立ち上がった。地域の若者によって構成され、地域を盛り上げようと活動を開始。地域と

### ● 平時

佐那河内村に来てもらい、移住コーディネーターと一緒に空き家や村内を見て回りながら佐那河内村の現状を説明。移住希望者は空き家バンクに登録してもらう。

### ● 移住時

条件に見合う物件と移住者がマッチした場合、まず地域へ移住者のプロフィールを持つて説明をして了解を得る。了解が得られた場合、所有者との交渉を経た後、空き家改修等、サポートを開始。この時点で常会と呼ばれる月一回の地域の寄り合いにも参加してもらい、イベントや祭り等への参加も案内する。

● 移住者受け入れまでの流れ

### ● 移住後

移住前から地域に入ることで移住後はスムーズに生活できている。今後は移住後の地域の反応も気にしながら、その後の様子を伺いたい。

の繋がりの強さを活かし、空き家の所有者から空き家を借り、その空き家を移住者へ転貸している。どちらの団体も移住者がスマーズに地域に入れるよう、事前の挨拶回りに同行したり、農業支援や空き家改修時に作業を手伝つたりしている。

### ● フルムーンダイニング

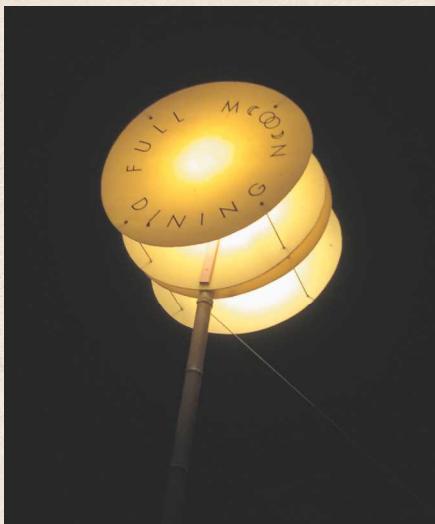
『満月の夜に佐那河内村に偶現される食卓』。現代美術家の北澤潤氏のプロジェクトにより、再生した古民家を活用したイベントで、「月のリズム」を意識する習慣を再創造していくアートプロジェクト。「満月の日は生命が誕生しやすい」など、月の満ち欠

けは人間の暮らしに何らかの影響を与えていたといわれるが、普段、あまり意識することはない。古民家もかつては人の営みがあり、家族で賑わっていた場所だが、今では空き家となり忘れ去られた場所となつている。

そこで佐那河内村ではいん

な人が関わつて再生した古民家

で、満月の夜に移住者がホストとなり、地元の人やこれから佐那河内村に移住を希望している人、興味を持っている人が食卓を囲み、月・地球・太陽が巡り合つて重なり生まれる満月のような不思議な縁に感謝し、



フルムーンダイニングの様子。

### 移住者の声



島津臣志さんは一級建築士。「ちょうど僕と同世代の30代~40代の方々が移住者の支援などを行う『ねごう再生家』という自主組織をつくっていて、移住前に彼らと知り合うことができたおかげで、佐那河内村で暮らしていくイメージも自然と固まりました」。現在は地域と共に空き家などの改修を手掛けている。

出身地:徳島市 移住年:2015年  
職業:自営業

今後について佐那河内村で活動する移住コーディネーターの西川さん(写真下)は、「移住コーディネーターとして活動する中で、空き家の確保や移住者の受け込み、地域の一員となつて生活していく人を選ぶかが大事だと知りました。地域も移住者も移住後にトラブルにならないようにコーディネーターが架け橋となり、事前にお互いを知ることで地域の理解ある移住を進めて行

食事を楽しんでいる。今後も満月の夜には再生した古民家で、様々な人たちと食卓を囲み、佐那河内村の中で縁を繋いでいくよう、空き家再生や移住者受け入れを行つていきたいと考えている。

### 今後の展望

#### 移住に関する問い合わせ

佐那河内村  
移住交流支援センター  
名東郡佐那河内村下字中辺 71-1  
TEL : 088-679-2113



きたいと思っています。また、移住支援の2団体とも協力して、佐那河内村を盛り上げ、アピールできるようなイベントを増やしていきたいと思っています」と語った。

# 観光と移住は同じ根っこ 豊かな大地で育まれる野菜や果物を核に サステイナブルな地域社会を創造する

お野菜情報番組「阿波ベジもりもり」の1シーン。阿波ベジとは、阿波市の野菜や果物のこと。農業立市・阿波ならではの切り口で、野菜の魅力を通じて阿波市の魅力をわかりやすく発信するための番組。



## 地域の背景

徳島県中央北部の吉野川北岸に位置する阿波市。温暖な気候と肥沃な土地に恵まれ、トマト、レタス、ナス、キャベツ、大根など多種多様な野菜を生産する農業地帯だ。市は、国の天然記念物「阿波の土柱」、御所のたらいうどん、ぶどうやいちごなどの観光農園、四国八十八ヶ所霊場など、地域の魅力を積極的に発信してきた。東日本大震災後、NPOや地元の人々が避難者の受け入れを行い、市と阿波市観光協会がサポートしたことが、移住事業の本格始動のきっかけとなつた。「徳島県阿波市、食料自給率136%、学校給食の地産地消を推進中。誇れるものは農業です。」阿波市観光協会は、このキャッチコピーを掲げて移住事業を推進している。阿波市では「学校給食地産地消推進計画」を策定し、米は100%を達



阿波市産小麦使用の「ひばりのあしあと」クッキー

成、野菜は平成36年までに65%の地産地消率達成を目指していく。こうした食の豊かさを知り、問い合わせてくる移住希望者は多い。食の安全を求めて阿波市に辿りついた人々が「阿波市には食べるものがなんもある」と口にするのを聞くことで、地元の人々の意識も変化し、市の魅力を再確認していく好循環も生まれはじめている。豊かな大地に育まれた阿波ベジ（阿波市の野菜や果物）が、移住呼びかけの鍵となつてきている。

## ● 移住時

空き家契約は希望があれば

資格者を紹介。移住経験者である担当者が自身の経験を踏まえて、不安面などのヒアリング、心的負担がないよう関係各所へつなぐ。

**● 移住後**  
阿波市人権擁護委員会、NPO、農家、商工会、市役所など、関係各所とのネットワークを活かした連携でフォローを行う。交流イベント等を開催し、移住者間や地元住民との交流をサポート。

● 平時  
移住相談窓口は阿波市観光協会が担当。電話やメール、facebookメッセージなどで相談を受け付け。どんな移住をしたいか個別の移住ニーズをヒヤリング空き家バンク（阿波市）や地元情報による空き家の案内。（各業種の方との）就業相談マッチング。移住おためし物件「土成の家」に滞在していただきながら、地元住民との交流などを「デイネート」。

● 平時  
移住相談窓口は阿波市観光協会が担当。電話やメール、facebookメッセージなどで相談を受け付け。どんな移住をしたいか個別の移住ニーズをヒヤリング空き家バンク（阿波市）や地元情報による空き家の案内。（各業種の方との）就業相談マッチング。移住おためし物件「土成の家」に滞在していただきながら、地元住民との交流などを「デイネート」。

● 平時  
移住相談窓口は阿波市観光協会が担当。電話やメール、facebookメッセージなどで相談を受け付け。どんな移住をしたいか個別の移住ニーズをヒヤリング空き家バンク（阿波市）や地元情報による空き家の案内。（各業種の方との）就業相談マッチング。移住おためし物件「土成の家」に滞在していただきながら、地元住民との交流などを「デイネート」。

## 取り組みの実例

NPO法人阿波市めだかの学校スタッフのみなさん



地元中学生が「土成の家」で移住コーディネーターを体験学習



移住者交流のため開催した「精進料理の会」



もち米の田植えから収穫、しめ縄作り、餅つきまでを体験



● 移住者交流会の相談会  
阿波市観光協会では、移住後は地域に溶け込んで楽しく暮らしていく様子。移住者を囲む地域の交流会を行っている。地域の困りごとに応じてくれる阿波市人権擁護委員会と共に実施した「精進料理の会」は安全・安心な地元食材でこだわり抜いた精進料理を提供。地域に相談場所があることを

越し時などに複数回の利用可。

● 阿波市観光協会が運営する  
土成の家  
三木武夫元首相 生家の敷地内にある移住おためし物件。阿波市での暮らしや環境を体験。利用期間は1ヶ月までのショートステイ用だが、移住決定となつた後も物件探しや職探し、引っ越し時などに複数回の利用可。

## 今後の展望

JR徳島駅、徳島阿波おどり空港へは車で1時間圏内。土成ICからは関西・関東方面への高速バスもあるので、二地域居住や田舎すぎない環境で暮らしたいという移住者には好条件だ。「家探しの不安、転校の不安、仕事探しの不安などを移住経験者である複数の担当者が、自身の経験をいかして対応しています。地元の方達との連携により、細やかな相談に応じることが出来るのが強みです」と話す阿波市観光協会の保坂さん。今後は阿波市の総合戦略にも記されているように、新規就農の人たちを多く受け入れたいと考えている。「これまで

知つてもらっきっかけとなった。

● NPO法人阿波市めだかの学校

平成17年に阿波市内の中山間地域の自然環境と生活環境を維持することを目的に発足。平成23年からは市場町日開谷地区を中心に交流の場つくりを行い、映画会や料理教室などを実施。高齢化や過疎化に対応するために移住促進も行っている。

も有機農業や自然農を志し、移住して来られる人がいたのですが、その方たちに憧れて阿波市に来られる方もいらっしゃいます。阿波市独自の特別な支援制度や助成金があるわけではないのですが、農家さんとのマッチングや移住後のフォローに尽力し、豊かな食生活を継承するためのお手伝いができるだと考えています」。

## 移住者の声



宮崎克哉さんはほぼ独学で農業を始め、今ではスタッフを雇うまでに。「まわり道しましたが、だからこそ伝えられることがあります。阿波市は気候や土の性質、吉野川北岸用水の整備、流通面など農業を営むには好条件が揃っています」。宮崎さんの元で研修した長谷川祥子さん(東京から移住)も『ルーラル・ハピネス』という屋号で独立立ち。NPO法人阿波市めだかの学校で地域活性化や移住相談など受け入れ側へ回っている。

出身地:愛媛県 職業:農業



すっかり自然暮らしに馴染んだ移住キッズ

## 空き家バンクに関する問い合わせ

### 阿波市役所 企画総務課

阿波市市場町切幡字古田201番地1

TEL : 0883-36-8700

## 移住に関する問い合わせ

### 阿波市観光協会

阿波市阿波町東原173番地

TEL : 0883-35-4211

# 人が人を呼び込む「四国のへそ」三好市。 民間団体との連携により「暮らしはアナログ、 仕事はデジタル」の生活を支援!



祖谷のじゃがいもや、ジビエなどを使って祖谷の風景と池田の町を表現(第二回マチソラ芸術祭 foodscape! ーおいしい祖谷の風景ー)



三好市のサテライトオフィス第一号「あしたのチーム」

持続可能な観光により、日本の美しい田舎の風景の保全や過疎地の再生を目指すNPO法人(理事長アレックス・カー)。築300年の茅葺屋根の古民家「簾庵」に拠点を置いて活動。現在、東祖谷落合集落にて「桃源郷・祖谷の山里」と名付けた祖谷の空き家を利用したステイ事業を柱としたプロジェクトを行っている。



東祖谷釣井集落にある茅葺き屋根の古民家「簾庵」

## 地域の特徴

四国のほぼ中央「四国のへそ」に位置し、「祖谷のかずら橋」「大歩危・小歩危」「吉野川ラフティング」などで知られる「大観光地」である。これまでに地域おこし協力隊の活動やサテライトオフィス誘致などにより移住者が増え、住民間に新たな連携を生み、若者と既存住民の協働による、楽しい地域づくりがあちこちで動き始めている。

## 取り組みの実例

### ● 簾庵トラスト

● 平時

- ・三好市：移住フェアなどに参加し、移住を呼びかける。
- ・マチソラ…うだつマルシェやマチソラ芸術祭のイベント時に、移住希望者にアプローチ。

### ● 移住時

移住希望者は三好市役所の移住窓口にて受付。移住希望者からヒアリング日程調整のうえ、移住担当者または集落支援員・マチソラが現地案内。案内先は移住支援団体(マチソラなど)、休廃校等活用事業者、空き家、観光地など。うだつマルシェ等の気軽なイベントに誘い、に参加できるイベントに誘い、来訪を促す。

● 移住後

集落支援員が地域住民への顔つなぎを行う(自治会長へ挨拶など)。移住後は困りごとの相談対応、草刈りやゴミ処理の仕方の相談など)。マチソラはイベントへの参加を積極的に促し、交流促進を図る。

● 移住者受け入れまでの流れ

メディアにも多数取り上げられ、都市部からの宿泊客が多く、スタッフも移住者がメインとなり働く

休廃校等活用事業

2013年三好市池田町の  
由緒ある旧政海旅館に東京に本  
社を持つ『あしたのチーム』がサ



テライトオフィスを開設。あしたのチーム主催の視察研修や三好市の休廃校等活用事業がきっかけとなり、現在三好市は旧政海旅館に2社・休廃校に3社、計5社のサテライトオフィスが進出している。スタッフは現地雇用がメインで、地域の新たな働き場所としても注目されている。

うだつマルシエ

2011年から今年で第14

四目を数える「うだつマルシ」。  
「四国のへそ」と呼ばれる交通の  
要所の利点を生かし、四国中の  
手作り作家や農家さん等が集ま

を輝かせることで、交流人口の拡大を図り、この交流人口のなかからリピーターなどの三好市ファン（関係人口）の獲得へとつなげ、将来的に移住定住へとつなげるサーサイクルの構築を目指す。

## 今後の展望

並みの雰囲気を楽しみながら、作り手との会話を楽しんでもらおうと年に2回『うだつマルシェ実行委員会』が実施。来場者数は毎回増加しており、地元住民はもちろんのこと、四国各地から多くの人が訪れる一大イベントとなっている。



#### ラフティングのメッカ・大歩危小歩危

移住者の声



稻盛将彦さんは「NPO法人篠原トラスト」のスタッフを経て、現在は東祖谷落合集落にある食堂併設の交流スペース「なごむLIFE SHARE COTTAGE」を地元の方と一緒に運営している。「祖谷の勝手口」みたいな気軽に寄れるけど、外の空気を感じられる場所にしていきたいと思っています。なごむ以外にも郵便局で働いているのですが、いろんな集落に行くので、今まで知らなかった人たちと触れ合えて、意外と面白いです」。

出身地:千葉県 移住年:2011年  
職業:なごちLIFE SHARE COTTAGE管理人兼ポストマン

## 移住に関する問い合わせ

**特定非営利活動法人マチソラ**  
三好市池田町マチ2467-1  
TEL : 050-3476-1769  
活動内容 : サテライトオフィスコン  
シェルジュ事業・マチソラ芸術祭・  
うだつマルシェなど

三好市移住交流支援センター

(三好市役所地方創生推進課内)  
三好市池田町シンマチ1500番地2  
TEL: 0883-72-7607  
活動内容: 移住交流・空き家活用  
に関するこ

# 県都徳島市に隣接する、 ほどほど便利な田舎のベッドタウン



勝浦川が東西に貫く平野部に集落が点在する勝浦町



貯蔵庫で熟成させた「貯蔵みかん」の名産地

## 地域の特徴

1955年、旧横瀬町と生比奈村の合併により勝浦町が誕生。町の中央を貫く清流、勝浦川の河岸段丘状に発達した平野部に、集落が形成された中山間地としてその名を知られ、四国八十八カ所の第20番札所・鶴林寺を有し、遍路の往来が絶えない町でもある。県都・徳島市と、

## 取組の実例

### ● ふれあいの里さかもと

勝浦町の最奥、坂本地区の旧坂本小学校の廃校舎を活用して2002年にオープンしたのが「ふれあいの里さかもと」。地域住民による、坂本グリーンツーリズム運営委員会が運営にあたり、地域の人たちをインストラクターとして、様々な田舎体験を実施しているほか、簡易宿泊所として多くの方が宿泊できる施設となっている。年間の利用者数は約1万2000人。その

あるなど、公共交通機関が路線バスのみではあるが、生活に必要な施設は町内に充実している。

### ● 移住時

移住を検討されている方に「田舎トライアルハウス坂本」での事前滞在がお勧め。なお、空家を希望する場合は、勝浦町空家バンクに登録を。実際に見てみたい物件があつた場合、所有者と連絡し日程調整を行い、後日引き合わせを行う。賃貸および売買契約に関しては、個人間で行つていただく。

**● 移住後**  
困りごとへの相談対応等サポートを実施予定(※基本的には、「こちらから積極的なアプローチは行わず、相談がある際にケース・バイ・ケースでの対応を行う)

### ● 平時

勝浦町役場産業交流課、田舎トライアルハウス坂本家、都市圏開催の移住フェア等にて、受付案内および移住希望等の事前ヒアリングを行ない、(希望があれば)担当者が空家物件、観光地など現地案内する。

● 移住者受け入れまでの流れ

功績が讃えられ、2014年に  
は地域づくり総務大臣表彰を受  
賞する他、多数の受賞歴がある。

### ●田舎トライアルハウス坂本家

坂本地区の旧街道筋にある、  
築50余年の商家を改装し、  
2014年12月に移住・定住を  
志す方向けのシェアハウスとして



2泊～お試し定住ができる「田舎トライアルハウス坂本家」



宿泊のほか、各種田舎体験メニューも豊富

オープンした「田舎トライアルハ  
ウス坂本家」。最短2泊から最  
長3ヶ月の期間、勝浦町での生  
活体験ができる。一般的な家具  
(寝具は持ち込みか、レンタルが  
可能)や食器、生活消耗品、水道  
光熱費はすべて利用料金の中に  
含まれており、安価で利用でき  
る。事前に相談すれば、田舎暮らし  
体験や、空家バンク登録物件  
の紹介も行っている。

### ●貯蔵みかん農家

#### 後継者マッチング事業

県内屈指のみかん生産地であ  
る勝浦町だが、過疎高齢化によ  
り農家の数は減少し続けている。  
一軒の農家よりあった後継者募集  
の申し出により、移住政策も交  
えた町外からの新規就農者によ  
る貯蔵みかん農家、後継者マッチ  
ング事業をスタートさせた。将来  
自分たちで引き継ぐことになる  
農園で一定期間研修し、研修終  
了後に両者間でマッチングができ  
れば園地や農業器具、そして販  
(農家によって対応は異なる)、農  
園経営を移譲するというもの。  
2016年3月には、この事業  
により東京から新規就農した20  
代の夫婦が移住を果たし、現在  
農家にて研修を受けている。

※本事業は、後継者募集を考え  
ている町内の農家が、一定の条件  
を備えた場合に募集を行うもの  
で、常時募集を行っているわけ  
はない。詳しい内容や状況について  
は必ず事前にお問い合わせを。

### ●U・J・ーターン

勝浦町移住定住支援  
新築・空き家改修等補助制度

### 当制度により、移住定住を促進し地域の活性化を図るため、新築・改修等に要する費用の一部を補助する。

新築・新築購入の場合  
は、費用の10%。ただし、100万円を上限とする。改修の場合  
は費用の2／3以内。ただし、100万円を上限とする。

### 今後の展望

2015年10月に

#### 移住者の声



アウトドアが好きで移り住んだ岩佐勇毅さん、章代さん、亮佑くん。「近所の方も親切で、気さくに声をかけていただき、充実した毎日を送っています。都市部に比べ、ないものもたくさんありますが、病院やスーパーなど、暮らしに必要な施設はあります。田舎暮らし初心者にこそ、おススメの場所ですよ。」

移住年:2011年 職業:会社員



現在20代の夫婦2名が研修中

#### 移住に関する問い合わせ

##### 勝浦町役場 産業交流課

勝浦郡勝浦町大字久国字久保田3

TEL: 0885-42-1505

##### 田舎トライアルハウス坂本家

勝浦郡勝浦町大字坂本字平野41

TEL: 050-3438-7728

E-mail: trialsakamoto@quolia.ne.jp

「ひと」の流れを作る、というも  
のがあり、空家バンクをはじめと  
した住環境の整備、町内での宅  
地確保、田舎トライアルハウス坂  
本家の利用促進と、それらの  
PRを基に、移住の促進を行つ

ている。また、若い世代の希望を  
叶える町づくりを推進し、特に  
重要な子育て支援については、よ  
り拡充を図り、安心して暮らし  
ていけるよう取り組んでいるところだ。

# 民間主導で課題解決 キー・パーソンが移住を支える町



美波町のシンボル、厄除けの寺として知られる美王寺。

## 地域の特徴

2006年3月、海部郡の日和佐町と由岐町が合併して誕生した美波町。四国八十八カ所の第23番札所・薬王寺のお膝元として知られ、日和佐のみがめ博物館や大浜海岸など見どころも多く、観光にも力を注いできた。ここ数年は『伊座利モード』といわれる漁村留学による地域おこしや、サテライトオフィスの誘致、移住「一デイネーター」の委嘱などの取り組みが功を奏し、2014年は合併以来初めて、人口が社会増に転じた。

## 取り組みの実例

地域の人々が自分たちの町を守るために課題解決法のひとつとして「移住者を呼び込む」とことに着目。各地域、各分野でのキーパーソンがそれぞれの強みをいかし、移住に関わる活動をはじめ、

町がそれをバックアップする形で活動が続いている。美波町を代表する移住の取り組みは大きく3つある。

### ●伊座利モデル

活動が続いている。美波町を代表する移住の取り組みは大きく3つある。

町がそれをバックアップする形で活動が続いている。美波町を代表する移住の取り組みは大きく3つある。

### ●移住時

県のコンシェルジュデスクか、町の移住相談窓口へ連絡を。「とくしまで住み隊」会員へ登録してもらったうえで、空き家紹介など必要なサポートを提供する。

県のコンシェルジュデスクか、町の移住相談窓口へ連絡を。「とくしまで住み隊」会員へ登録してもらったうえで、空き家紹介など必要なサポートを提供する。

### ●移住後

町内会への加入案内など、よりスマートに地域に溶け込めるよう、移住「一デイネーター」による定住のためのツボを押さえたレクチャーあり。その後もサポートを行うが、自立の目安は2か月。一町民としてお互いが親しきすぎない距離感を保つて付き合うことが出来て、定住成功となる。

### ●移住者受け入れまでの流れ

人口減少により、由岐中学校の伊座利分校と伊座利小学校の二つが合わさった「伊座利校」の存続が危ぶまれた2000年4月、「学校の灯を消すな!」を合言葉



### ●平時

美波町役場総務企画課内にサテライトオフィス、地域おこし協力隊等移住全般、個人の移住希望者へそれぞれ対応する3人の担当者を配置。ス

ムーズに要望に応えられるよう、情報共有を行っている。一般の移住希望者への呼びかけとして効果を感じているのは、移住「一デイネーター」を同行した移住フェアや移住相談会への全出席。

一般社団法人アンド・モアは町の景観を維持するため、建築家の学生らと共にワークショップを行うなど空き家活用にもつとめている。



に、約100名の伊座利地区的住民全員をメンバーに「伊座利の未来を考える推進協議会」が発足。漁村留学を核に、移住者家族の受け入れをはじめ、6年間で130人くらいまで増加。また、大敷網漁という独特の漁法を行っていることから、漁業権も比較的大いに「漁師になりたい」として、「漁師になりたい」

という人の受け入れも行っている。

#### ● サテライトオフィス(SO)

2013年、美波町出身の「サイファー・テック株式会社」社長・吉田基晴さんが本社機能を美波町のオフィスに移転させたことを契機に、次々とサテライトオフィスが進出し、現在は神山町と並ぶ12社に。吉田さんは地域活性化を目的として各種プロデュース事業を展開する「株式会社あわえ」を起業し、他の自治体へ向けてS Oのノウハウ提供や、神山塾に相当する「美波クリエーターズスクール」を開講。全国各地から若者を呼び込むきっかけとなっている。

● 移住コーディネーター  
S O開所時にオフィスの改修、スタッフの居住探し、移住後のサポートなどを実行するため、町は小林陽子さんを移住コーディネーターに起用。小林さんは30年前から単独で移住コーディネーターに相当する仕事をボランティアで行っていたが、加速する人口減少と移住の問い合わせに対処するため、移住定住の促進及び支援、空き家活用などを行う『一般社団法人アンド・モア』を2015年2月に設立。移住希望者に対する空き家

紹介にはじまり、引越しの手伝い、紹介にはじまり、引越しの手伝い、

あいさつ回りの同行、暮らし始めてからの困り事相談などワーンストップの支援が好評で、定住率は100%！また、町の景観保全のための左官・大工ワークショップや、空き家を改修し、お試し居住施設を作るなど、ハードとソフトの両面で移住を取り組んでいる。

影治町長にお話を伺うと、「山、海、川がコノバクトにまとまつて暮らしの中にあるという地の利をいかし、アウトドア好きな短期滞在者や二地域居住、インバウンド対策も盛り込んだ観光型移住の環境整備についても地域と足並みをそろえ、前向きに取り組んでいきたいと考えています」とのこと。シーカヤックやスキーバダイビング、トレイルランニングなどアクティビティが豊富で、定期的に大会やイベントも開催されている。

#### 今後の展望

美波町はトライアスロン大会の候補地に立候補していて、町にぎわい創出に期待がかかる。またサテライトオフィスも企業誘致だけでなく、新たなフェーズへ。サテライトから独立したり、「美波クリエーターズスクール」の卒業生が起業する動きもあり、若者によるソーシャルインベーションにも注目が集まっている。

#### 移住者の声



「女性一人でも立ち寄れる黄昏宿をしたい」と移住した伊勢加奈子さん。自ら古民家を改修し、夢の実現へむけて奮闘中だ。「小林陽子さんと出会って、思い描いていた夢が猛スピードで実現しました!これまで積み重ねた経験もなかったんですが、今ではDIYの楽しさにはまってます。困ったらすぐに飛んできてくれる心強いサポートに感謝しています」。

出身地:兵庫県 移住年:2015年



移住コーディネーターの小林陽子さん。

#### 移住に関する問い合わせ

##### 美波町役場 総務企画課

海部郡美波町奥河内字本村18-1  
TEL: 0884-77-3611

##### 一般社団法人アンド・モア

海部郡美波町奥河内字本村85-1  
TEL: 0884-77-0575

# Uターンや林業を核とした移住対策を推進 地域おこし協力隊の充実も魅力

「もんてこいミュージカル」のワンシーン。70代のお婆ちゃんから小学生まで、幅広い年代の地域住民が出演・裏方を担当している。



## 地域の背景

平成19年。団塊の世代の大量退職を機に県下で団塊の世代対策に取り組む中、那賀町にも『那賀町移住交流支援センター』が設けられた。それとほぼ同時期に発足したのが『もんてこい丹生谷運営委員会』。発案者は保健師の取材で町を訪れていたノンフィクション作家・莊田智彦氏。

戦後の高度経済成長を背景に林業で栄えた那賀町は、木を切つて得た収入は子供の教育へおしみなく使った。進学と同時に一度故郷を離れると、「地元には仕事もないから…」と親でさえ、「もんてこい（もどっておいで）」とは言えない雰囲気があったといふ。その空気を察した莊田氏は「帰つてこないなら、こっちから押しかけて行こうよ」と提案し、平成21年6月、東京で「もんてこい真展 in 品川」が開催されること



町内には42の農村舞台が残っており、毎年いくつかの舞台で毎年人形浄瑠璃公演が行われている。

- 平時 空き家や住居などの相談を受け付け、情報提供を行う。移住促進に向けた町のPRや体験型観光などの交流事業の推進を行う。また空き家バンクも設けていて、これまで14成約している。平成27年度からは空き家所有者、移住者を対象に改修費の助成へ改修費の1/2、上限100万円までを実施している。
- 移住時 那賀町役場の移住相談窓口にて受付し、移住希望者からヒアリングを行う。空き家を希望する場合、所有者に連絡し、日程調整を行い、空き家へ案内し、所有者と引き合わせる。

- 移住後 困りごとへの相談対応等サポートを実施する。
- 平成28年度からは、移住・定住支援員の設置により、サポートの充実を予定している。

● 移住者受け入れまでの流れ

## 取り組みの実例

### ● 地域おこし協力隊の導入

平成25年、木頭地区の山村留学センター「結遊館」、前述の「もんてこい丹生谷運営委員会」が地域おこし協力隊を希望したことできっかけに募集を始め、1期生として5名が那賀町へ。任期

実際の現場への行き、伐採などを見学する林業体験。



林業機械指導も山武者が担当。参加者と年齢が近いのは魅力的。



● 林業体験  
平成24年、町内6社の林業関連会社と森林組合・町役場の20代～30代の若手31人により結成された「山武者」が中心となつて、移住者を林業の担い手の対象としたイベントを開催。林業について知つてもらおうと昨年秋に企画された「リアル林業体感DAY'S」は好評で、平成28年度も9月17日～19日に実施を予定している。

一方、東京都内においては、平成28年8月6日～7日に、林業や地元企業の就業相談会や木工教室、山武者によるトークセッ

て、事前に申請すれば比較的自由に使うことができるのも魅力だ。「若い人や他県からの移住者の力を借りて、斬新なアイデアで地域を盛り上げて欲しい」と地域おこし協力隊の導入に前向きで、平成28年度は12名という大量募集を行つたことも話題になつた。

### ● 林業体験

平成24年、町内6社の林業関連会社と森林組合・町役場の20

代～30代の若手31人により結成された「山武者」が中心となつて、移住者を林業の担い手の対象としたイベントを開催。林業について知つてもらおうと昨年秋に企画された「リアル林業体感DAY'S」は好評で、平成28年度も9月17日～19日に実施を予定している。

シヨンを「移住交流情報ガーデン」にて開催する。

## 今後の展望

シヨンを「移住交流情報ガーデン」にて開催する。

林業の後継者として、移住者獲得を目指す林業関係の団体と連携し、移住対策を進めるの

と同時に、平成28年度から各支

所管内に移住・定住支

援員を配置し、地域に

根ざした移住・定住支

援と空き家対策の推

進を図る。移住・定住

支援員は公募ではなく、各支所管内から選

出。地域に根付き、活動のできる人を町が指

名し、依頼する。こう

することできき家は

あつても、なかなか利

活用に至らない現状の

改善や、移住者への細

やかなサポートに取り組みたいと考えている。

また昨年秋、那賀町

は徳島版ドローン特区

に認定され、シミュレーターを使った操作訓練

や勉強会を定期的に行つてある。航空法の改正により活用が制限

### 移住者の声



赤澤真紀子さんはもともと上板町の出身。家はご主人が中心になつてレンタカーで県内を回った。「その中でも那賀町はすぐに家を紹介してくれたんです。ご担当者の方も親身になって応対してくださって、感動しました。その出会いが移住の決め手です」。現在は三味線、着付け教室『和の学び舎』を主宰し、活躍している。

出身地:上板町 移住年:2015年  
職業:自営業



ドローンの勉強会にて。四季美谷温泉を拠点に温泉×ジビエ×ドローンの異色の組み合わせで地域おこしに取り組んでいる。

### 移住に関する問い合わせ

那賀町移住交流支援センター  
那賀郡那賀町和食郷字南川104番地1  
那賀町役場内  
TEL: 0884-62-1184

ワンストップでドローン撮影が自由に行えるプラットフォームの確立等をめざし、山村の交流人口を増やすのが狙いだ。現在町ではドローンをテーマにしたテレビドラマも制作中で、地方創生のニュースと共に今後も注目を集めそうだ。

海部川河口でサーフィンをする人。



## 自然が好き、海が好き、サーフィンが好き 共通の趣味を楽しむ人達が移住を牽引

### 地域の特徴

過去15年間、本格的に雪が降つたことがないという南国らしい温暖な気候が特徴。海・山・川で一年を通してアウトドアスポーツが楽しめる海陽町は、海の幸、山の幸、川の幸と四季折々の旬の食にも恵まれた自然豊かな地域だ。隣接する高知と生活圏を共にし、田舎町ならではの人情味も魅力だ。

そんな海陽町の移住の先駆けとなつたのはサーファーだった。

サーフィンのメッカとして全国的に知られる海陽町は、サーフィンの人気の上昇と共に訪れる人が増え、上半身裸で町中をうろつく、海にゴミを残して帰るなどマナーを守らない人が続出。サーファーに対するマイナスイメージを地域に植え付け、サーファー＝迷惑な人たちとして敬遠されるようになつた。しかし、近年その状況は好転。サーフィンが趣味

で移住し、病院を開業したり、農業を始めるなど、地域の一員として意識をもつて活動する人が徐々に周囲に認められ、イメージを覆した。またサーファーたちが海の清掃活動を行うなどマナー改善に取り組んだことで、サーファーや移住者に対して見直される傾向に。今でもサーフィンを求めて来町する移住者は後を絶たない。

#### ● 移住者受け入れまでの流れ

移住希望者の話を一通り聞いたうえで、農業、林業など担当課を案内する。決まり流れはなく、ケースバイケースでの対応を行っている。

## 取り組みの実例

移住の際に必ず必要になるのが、家と仕事。海陽町では

2015年秋、本格的な空き

家調査を実施。耐震診断や修繕

箇所の有無について調べ、ゆくゆくは移住者の住居に活用してもらおうと、間取り、写真などを整理し、ホームページでの公開を予定している。

### ●きゅうりタウン構想

仕事については、特産のきゅうりに着目。美波町、牟岐町、海陽町の3町とJAかいふと徳島県が共同で、海陽町に新規就農者を育てる「海部きゅうり塾」を設け、専用の実験ハウスでは、きゅうり栽培を一から無料で学ぶことができる。また女性も働きやすいよう、今回初めてきゅうりの水耕栽培にもチャレンジ。ハウス栽培のきゅうりの需要は安定しているうえ、万が一価格が暴落した場合、ある程度補填される保険もあり。台風シーズンの7月～9月の2、3ヶ月間は完全オフ！長期間まとまった休みがあるので、旅行にいくもし、夏休み中は子供とたっぷり遊ぶ也可以。「きつい」「汚い」「儲からない」といった農業のイメージを払

きゅうり栽培の様子。



1000万円で年収30a（アール）で年収

きゅうりでの町おこしを目指している。

### ●コワーキングセンター城山荘

サテライトオフィス誘致にも着手。元々デイサービスセンターだった「城山荘」を改修し、コワーキングスペースとして運営を開始。作業スペースの目の前は海。シャワールームも完備しているので、サーフィンしてから仕事をする…なんてことも可能だ。企業でも、個人事業主でも利用できるので、一度、海陽町で働く快適さを体感してみては？

## 今後の展望

農業、林業、漁業の後継者育成を目的とした滞在型人材育成事業「ふるさとしごと塾」など



### 移住者の声



24年前、プロサーファーを目指して単身海陽町へやってきた田中宗豊さん。「田中さん、来週の日曜、○あるでえ、頼むわな」とか、近所から当たり前に声がかかるようになって、自然と地域に馴染んでいったよう思います。そのきっかけを作ってくれたのは嫁さん。僕よりも『奥さんの方が声をかけやすい』と思われたんでしょうね(笑)」。

出身地:大阪府 移住年:1992年  
職業:サーファー、シェイパー、農業

こうした町の魅力を掘り起こし、移住者、定住者向けの情報整理を行い、町のホームページなどで発信を予定している。

## コワーキングセンター城山荘

### 利用時間

平日8:30～17:15(土日利用可 要予約)

### 利用料金

1日利用300円(予定) 1ヶ月利用3000円(予定)

### 利用可能設備

無線LAN、コピー機、ホワイトボード、プロジェクタなど。

### 移住に関する問い合わせ

海陽町役場 まち・みらい課  
海部郡海陽町大里字上中須128  
TEL: 0884-73-4156

# 徳島県の取り組み

## とくしま移住交流促進センター

平成27年年8月。徳

島県内の移住情報を総

括した待望の『とくしま

移住交流促進センター』

がオープン。徳島県への

移住を希望する人に向

け、電話相談や面談を

中心に様々な活動を行つ

ている。移住・定住のサ

ポートを行う自治体担

け、電話相談や面談を

中心に様々な活動を行つ

ている。移住・定住のサ

ポートを行う自治体担

当者や移住支援団体とのパイプ役はもちろん、農業、林業、漁業などへ就業を支援する助成制度の案内や、住宅相談、仕事など徳島県の各部署やとくしまジョブステーションやハローワークと連携してサポートしている。



### とくしま移住交流促進センター

徳島市寺島本町西1-61 徳島駅クレメントプラザ5階  
とくしまジョブステーション内

専用フリーダイヤル とくしまな(とく!)  
**0120-109-407**

相談受付時間:10:00~18:00  
(土曜・日曜・祝日休)※予約優先

最新情報は徳島移住・交流支援サイト  
「住んでみんなで徳島で!」をチェック!  
<http://tokushima-iju.jp>



こんな活動をしています!



ポート体制を構築している。

市町村と連携し、移住希望者と地域住民との「つなぎ役」として、「コーディネーター」を育成し、移住から定住までのきめ細かいサポート体制を構築している。

全国の移住フェアをはじめ、徳島県単独移住セミナーの開催により、都市部からの徳島県への移住者を呼び込んでいる。

県内への移住者と地域の支援団体と行政担当者の交流の場を創り、移住者同士の繋がりづくり、移住後のアフターフォローを行っている。

## 「とくしまで住み隊」会員募集中!

「とくしまで住み隊」会員に登録すると、希望者には移住フェアなどの情報が届くメールマガジン配信中。仕事探しや家探しに便利なレンタカーや宿泊料金の割引など会員だけの特典が利用可能。申し込みは「住んでみんなで徳島で!」のサイトにアクセスし、「とくしまで住み隊」のバナーをクリック。応募フォームに住所、氏名などの基本的な情報を記入すると後日、会員証が届き、登録完了。移住を考えている人にぜひおススメですね。



## 大阪

### 住んでみんなで徳島で! 移住相談会

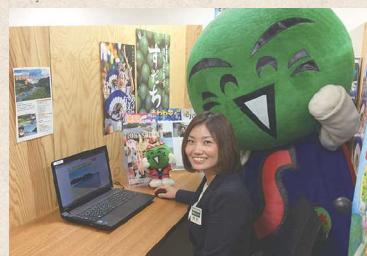
大阪市中央区本町橋2-31  
シティプラザ大阪内1階  
大阪ふるさと暮らし情報センター  
TEL.06-6251-3273(徳島県大阪本部)  
相談受付:毎月1回  
10:00~18:00



## 東京

### 住んでみんなで徳島で! 移住相談センター

東京都千代田区有楽町2-10-1  
銀座ファーマーズラボ 東京交通会館6階  
ふるさと回帰支援センター  
TEL.03-6273-4401  
徳島県コンシェルジュ直通 090-7720-7047  
相談受付時間:10:00~18:00(月曜・祝日休)



## 各自治体の相談窓口

徳島市 経済政策課	TEL.088-621-5225
鳴門市 商工政策課	TEL.088-684-1158
小松島市 秘書政策課	TEL.0885-32-2127
吉野川市 企画財政課	TEL.0883-22-2221
阿波市移住交流支援センター	TEL.0883-35-4211
勝浦町移住交流支援センター	TEL.050-3438-7728
上勝町移住交流支援センター	TEL.0885-46-0111
佐那河内村移住交流支援センター	TEL.088-679-2113
石井町 総務課	TEL.088-674-1111
神山町移住交流支援センター	TEL.088-676-1177
松茂町 総務課	TEL.088-699-8710
北島町 生活産業課	TEL.088-698-9806
藍住町 企画政策課	TEL.088-637-3124
板野町 産業課	TEL.088-672-5994
上板町 企画防災課	TEL.088-694-6824
阿南市移住交流支援センター	TEL.0884-22-7404
那賀町移住交流支援センター	TEL.0884-62-1184
牟岐町移住交流支援センター	TEL.0884-72-3420
美波町移住交流支援センター	TEL.0884-77-3611
海陽町移住交流支援センター	TEL.0884-73-4156
美馬市移住交流センター	TEL.0883-52-8129
三好市移住交流支援センター	TEL.0883-72-7607
つるぎ町移住交流支援センター	TEL.0883-62-3111
東みよし町移住交流支援センター	TEL.0883-82-6302



## 移住に関する相談窓口

### ●空き家に関する相談総合窓口

「とくしま回帰」住宅対策総合支援センター  
徳島市川内町平石住吉209-5  
徳島健康科学総合センター3階 徳島県住宅供給公社内  
TEL.088-666-3124  
相談受付時間:9:00~17:00(土曜・日曜・祝日休)

### ●就職に関する相談

とくしまジョブステーション  
徳島市寺島本町西1-61 徳島駅クレメントプラザ5階  
TEL.088-625-3190 088-622-6361  
FAX.088-625-5179  
メールアドレス:jobstation@tk2.nmt.ne.jp

徳島県東京本部 徳島Uターンコーナー<sup>①</sup>  
TEL.03-5212-9022

徳島県名古屋事務所 徳島Uターンコーナー<sup>②</sup>  
TEL.052-262-4677

徳島県大阪本部 徳島Uターンコーナー<sup>③</sup>  
TEL.06-6251-3273

※各窓口ではUIJターンの相談に応じています。

### ●起業に関する相談

徳島県企業支援課 商業振興・経営支援担当  
TEL.088-621-2367 FAX.088-621-2853  
メールアドレス:kigyoushienka@pref.tokushima.lg.jp

公益財団法人とくしま産業振興機構 総合支援部  
TEL.088-654-0103

### ●農業に関する相談

徳島県新規就農相談センター  
TEL.088-621-5611  
FAX.088-621-3083  
メールアドレス:senta@tokukaigi.or.jp

徳島県農林水産総合技術支援センター 経営推進課  
TEL.088-621-2427 FAX.088-621-2858  
メールアドレス keieisuishinka@pref.tokushima.lg.jp

### ●林業に関する相談

公益財団法人徳島県林業労働力確保支援センター  
TEL.088-622-8158 FAX.088-626-5411

徳島県林業戦略課  
TEL.088-621-2457 FAX.088-621-2861  
メールアドレス ringousenryakuka@pref.tokushima.lg.jp

### ●漁業に関する相談

徳島県漁業就業者確保育成センター(徳島県水産振興課)  
TEL.088-621-2474 FAX.088-621-2863  
メールアドレス suisanshinkouka@pref.tokushima.lg.jp

# 平成28年度 移住・交流フェア予定表

日時	フェア名	場所	主催	会場
8月6日(土) 10:00～16:00(予定)	ふるさと回帰フェア2016in大阪	大阪	認定NPO法人 ふるさと回帰支援センター	大阪マーチャンダイズ・ マートビル
9月4日(日) (時間未定)	朝日U・Iターン相談会	大阪	朝日新聞社	ヒルトンプラザウエスト・ オフィスタワー
9月18日(日) (時間未定)	せとうち暮らしフェア(仮)	東京	認定NPO法人 ふるさと回帰支援センター	東京交通会館
9月24日(土) 10:00～16:00(予定)	中国四国 もうひとつのふるさと探しフェア in大阪2016	大阪	中国四国共同移住・ 交流フェア実行委員会 (中国・四国地方の9県等)	難波御堂筋ホール
10月22日(土) 10:00～17:00(予定)	ふるさと回帰フェア2016	東京	中国四国共同移住・ 交流フェア実行委員会 (中国・四国地方の9県等)	東京国際 フォーラム
10月30日(日) 10:00～16:00(予定)	四国暮らしフェア	東京	四国移住交流 推進協議会 (四国四県の担当課)	ふるさと 回帰支援センター 12階
12月18日(日) 10:00～17:00(予定)	第2回 いいね!地方の暮らしフェア	東京	日本創生のための 将来世代応援知事同盟	東京国際フォーラム
平成29年1月 (予定)	JOIN移住・交流& 地域おこしフェア	東京	JOIN (移住・交流推進機構)	東京ビッグサイト

※この情報は2016年4月時点のものです。都合により、日時は変更になる可能もあります。最新情報は徳島県の移住交流情報サイト「住んでみんで徳島で!」にて掲載いたしますので、ご参考ください。上記以外に徳島県の単独フェアを数回開催予定。大阪でも毎月第2金曜に移住相談会(1市町村が交代で参加予定)を実施する予定。



引き続き実施します！

## 移住者交流会

移住者、地域での移住支援団体、行政担当者が  
交流する会を各地域で開催予定です。

## とくしま移住コーディネーター育成研修会

地域で移住者の受入れ、お世話を担う人材を育成します。  
年間数回の開催を予定しています。

※この他にも移住に関する取り組みを行う予定ですので、興味のある方はお住いの自治体の移住担当窓口へお問合せください。

# うちの町に 移住者が 来た!?

受け入れ地域の  
ケーススタディ



あなたの町に待望の移住者が  
やってくることになりました!  
これまで空き家だった家に明かりが  
灯っているのを見るだけ、  
ちょうどあなたかな気持ちになりますよね。  
でも、人間関係にはトラブルはつきもの。  
自分は関係ないと思っていても、  
同じ町に住んでいれば、  
なんらかのかかわりを持つ場面にも遭遇します。  
そんなとき、地域の一員として  
どう対処するのがいいか、  
一緒に考えてみませんか?

Case

1

小さな子供のいる家族が、移住したいと家を探しています。

いくつか空き家はありますが、  
どの地域をすすめるのがいいでしょう?



- とりあえず全部見てもらって自分たちで決めてもらう
- 同じ年くらいの子供がいる家の近所をすすめる
- 子育てにはお金がかかるので、とにかく安い家を紹介する
- 世話焼き老夫婦の隣の家をすすめる

「田舎で子育てしたい」という夫婦が

移住先を探して町へ来ました。

「この町を知りたいんですが…」と尋ねられたらどうしますか?

Case

2

- 観光名所を案内する
- 公園や児童館、図書館などの公共施設を案内する
- 自分は知らないので、詳しい人を紹介する
- どんなことを知りたいと思っているか話を聞く



Case

3

「趣味の釣りを満喫しながらのんびり暮らしたい」という  
70代の老夫婦が空き家を探しています。家族とは疎遠で、  
今のところ健康で「周囲に迷惑はかけない」と言っています。



- 年齢に関係なく、他の移住者と同じように接する
- 「田舎は不便ですよ」といって自然とあきらめてもらえるようにする
- 介護付きマンションを紹介する
- 詳しく事情をきいたうえで判断する

Case

4



地域おこし協力隊として若い女の子が来ました。

地域の行事も率先して手伝い、最近ではちょっとした買い物もしてくれるし、  
パソコンの使い方を教えてくれたりしていて、とても役立ってくれています。

- 地域に溶け込めてよかったと思う
- 自分も何か頼もうと思う
- 地域おこし協力隊は本来の仕事ではないので、遠慮するように周りに言う
- 女の子に「嫌なら断ればいい」と助言する

Case

5

ずっと使っていなかった実家を貸すことに。  
荷物を全部片付けるのは大変なので、賃貸の条件として、  
一部屋だけ荷物を置いたままにさせてもらうことにしたが、  
急に必要なものがあって、取りに帰りたい…。



- 面倒なので、あきらめる
- 電話して、行ってもいいか聞く
- 鍵は閉まっていないので、必要なものだけとつてすぐ帰る
- 合鍵で勝手に入る

Case

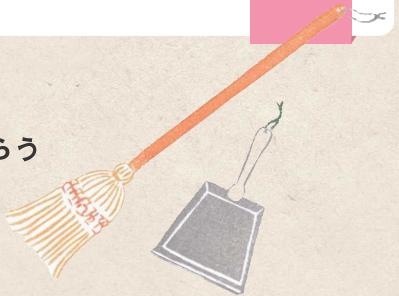
6

IT関係の若者が移住してきました。

夜中まで仕事をし、朝遅いため、夜のうちにゴミを出しているようです。

先日、ゴミがカラスにつつかれ、散らかっていたので「ゴミは朝出して」と

注意したら、近くのコンビニでゴミを捨てるようになりました。



- コンビニにゴミを捨てないよう注意する
- 町内会に入ってもらい、ゴミ当番や地域清掃にも加わってもらう
- 町内会長さんから話をしてもらう
- 無視する

Case

7

若い男の子が移住してきました。神輿の担ぎ手になってくれるということで、町内会長さんをはじめ、地域のみんなは大喜び。

一人暮らしは不便だろと食事を差し入れたり、周りの人たちが世話を焼いています。休日にはその子の友達も泊まりに来て、にぎやかではあるんですが、これでいいのかな…と思います。



- あまりかまいすぎないように注意する
- 本人たちがそれでいいならヨシとする
- 何が自分に不都合なことが起きたら文句を言う
- 役場などこの子を紹介した人に責任を問う



Case

0

地域の会議で移住者を受け入れようか、話題に上がりました。

受け入れを考えるにあたり、どんなことを考えますか？



- 空き家を確保する
- どんな移住者に来て欲しいか、考える
- 行政に移住者の斡旋を依頼する
- 移住者が来ることによる地域の変化を考える

ここに挙げたように、移住者を受け入れるためには様々なことを考える必要があります。人によっては「面倒なこと」という印象を与える可能性もあるでしょう。予め地域の中で様々な状況を想定して、どんな風に対応したらお互い気持ちの良い関係を築けるか、考えてみることも大切でしょう。

# 移住者あるある

徳島に移住してきた人たちが、戸惑ったこと、カルチャーショックを感じたエピソードをご紹介します。

「鹿肉いるか?」と言われて

貰いに行つたら、

解体から手伝うことになった。

「どうやってきたの?」と聞かれ、  
「電車です」と言つたら、  
すかさず「汽車な!」と訂正された。

あいさつ回りをしていて、

お礼を言つて帰ろうとしたら、

「どちらいか」と言われ、

意味が分からず、立ちつくした。

夜道は真っ暗。

何か光っていると

思つたら

鹿の目だった。

スダチとカボスを

間違えると怒られる。

スズメバチの巣ができたので、  
駆除業者を呼ぼうと大家さんに相談したら、  
「俺が行くから待つてろ!」と言われ、  
大家さんが駆除してくれた。

「あるでないで」は

あるのか、ないのか、  
わからない。



小さな町なので、

集落全員が

大量に  
野菜をもらう。  
一人暮らしに  
大根10本、  
マジ勘弁。

私の名前を覚えているが、  
こちらはまだ覚えきれず、  
とりあえず  
「お父さん」「お母さん」と  
呼んでいる。

雪は  
あまり降らないと  
聞いていたが、  
思ったより寒い。  
風が冷たい。

お店の入り口から

一番近いところに  
車を止めたがる。

軽トラの運転を  
することもあるので、  
免許は  
ミッショングの方が多い。

娘がいつの間にか  
阿波弁と東京弁の  
バイリンガルに。  
人を見て  
使いわけているのを見て  
びっくり！



#### 発行

徳島県政策創造部地方創生局  
地方創生推進課集落再生担当  
徳島県徳島市万代町1丁目1番地  
TEL.088-621-2701

#### 企画・制作

とくしま移住コーディネーター育成研究会  
ワーキンググループ

#### 編集

飛田久美子[一般社団法人アンド・モア]

#### デザイン

坪井秀樹[Clover Studio]

2016年4月20日発行

※本誌の情報は2016年3月時点のものです。各自治体や活動団体の都合により、内容は変更・中止になる場合がございます。ご了承ください。



# とくしま 移住者受入れ ガイドブック

Coordinator Guidebook  
Tokushima



とくしま移住コーディネーター育成研究会

